

弥生時代のマツリといえ
ば、銅鐸や銅矛などを用いた
青銅器祭祀が思い起こされま
す。もちろんそれだけではな
く、木製の道具を用いたマツ
リも行われていました。そう
いった木製祭祀具のひとつ
に、「木偶」があります。

木偶とは、弥生時代の遺跡
から出土する木製の人形で
す。人形といっても写実的な
ものではなく、大きさも一定
していません。出土数は少な
く、現在発見されているのは

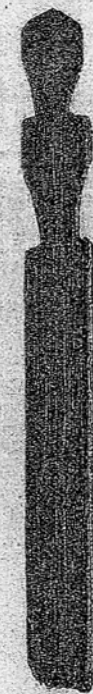
出土しました。1枚の板から
作られていて、長さ64・2センチ、
幅6・6センチ、厚さ3・3センチ、
スギ材でできています。頭部
は尖り、顔面には目と口の表
現があります。体には、肩と
腰の表現はみられますが、そ
れ以外は特になく、板状です。
下端は折れていて、摩滅して
います。

では、木偶とはいったい何
なんでしょう。『三国志』魏
書東夷伝馬韓条には、春の種
まき後と秋の収穫後に「鬼神」
を祀ることが記されていま
す。また、同書の高句麗条で
は「鬼神」を二棟の神殿に祀
ることが記されています。さ
らに、唐の時代に書かれた『周
書』には、同じようなやり方
で木製の祖霊神を祀る記述が
あります。これらを総合する
と、『三国志』でいうところ
の「鬼神」とは農耕神・祖霊
神であり、それは木製で神殿
に祀られるものだったと考え
られます。すなわち「鬼神」
＝農耕神＝木製の祖霊神であ
り、この「鬼神」に当たるの

赤野井浜遺跡の木偶



赤野井浜遺跡出土の木偶（県教育委員会提供）



が木偶ではないか、と考えら
れるのです。そして、木偶の
正体がどのようなものだとす
ると、木偶製作の目的は「豊
穰を祈り、豊作を感謝する対
象である農耕神・祖霊神の偶
像として」といえるかもしれ

ません。また、木偶「鬼神」だと
すると、前述の史書にはもう
一つ重要な記述が見られま
す。木偶を用いた祭祀が、史
書にあるような形態を伴って
日本に伝わったものだとする

と、神殿も伴っていたことにな
ります。ならば、木偶が出
土する遺跡ではかなり大きな
祭祀が行われていた可能性も
あるのです。最近の研究では、
木偶の希少性・偏在性から、
木偶が出土する集落は、旧国
あたり1〜3遺跡程度存在す
る中核的集落である可能性が
高いことが指摘されていま
す。だとすると、弥生時代の
近江は、木偶のマツリを行う
ことができるほどの集落が点
在していた豊かな土地だった
のかもしれない。

滋賀県の木偶は、9点のうち
4点が琵琶湖ないし内湖の
ほとりで出土しています。そ
れは、地下水位が高く、木製
品が残存しやすい状況であっ
たことも大きな理由なのでし
ょうが、湖岸に作られた水田
近くの水辺で豊穰を支える神
へのマツリが行われていた可
能性も示唆しています。近江
の木偶たちは、かつてどのよ
うなマツリを見つめてきたの
でしょうか。

（財団法人滋賀県文化財保
護協会 阿刀弘史）

五穀豊穰司る「鬼神」か

最近では、平成15年に守山
市赤野井浜遺跡の発掘調査で
いせん。

では1〜3点しか見つかって
いません。

最近では、平成15年に守山
市赤野井浜遺跡の発掘調査で